

2020年8月3日
国立大学法人東京大学

記者会見 開催のお知らせ
グローバル・コモンズ・センターの設立について

東京大学未来ビジョン研究センターは、持続可能な開発目標（SDGs）研究部門にグローバル・コモンズ・センター（英語名称：Center for Global Commons）を2020年8月1日に開設いたしました。

その開設に際しまして、三菱ケミカル株式会社さまより、豊かで持続可能な社会を目指し、その基盤である安定した地球環境を保全するというミッションにご賛同いただき、活動支援のご寄附をいただくと共に、化学産業における資源の循環・有効活用の新しいあり方を含む持続可能な社会のための社会・経済システム転換に関する研究と実践について協働することといたしました。

つきましては、グローバル・コモンズ・センターの概要説明と併せまして、三菱ケミカル株式会社さまとの協働内容について、下記のとおり記者会見を行いますので、ご案内いたします。

記

◆日時：2020年8月6日（木） 15:00～16:00（予定）

◆会場：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

◆記者会見の流れ：

- 第1部：グローバル・コモンズ・センターの設立

<出席者>

五神 真（東京大学 総長）

藤原 帰一（東京大学未来ビジョン研究センター センター長）

石井 菜穂子（東京大学 理事／グローバル・コモンズ・センター ディレクター）

- 第2部：三菱ケミカル株式会社との協働

<出席者>

第1部出席者（五神、藤原、石井）および

和賀 昌之（三菱ケミカル株式会社 代表取締役社長）

- 質疑応答

※Zoom ウェビナーの挙手機能を使ってご発言いただきます。事前にマイク設定をご確認の上、安定したインターネット接続環境下でご参加ください。

【本件に関する問い合わせ先】

東京大学未来ビジョン研究センター 事務局

電話：03-5841-1708

E-mail：ifi[at]ifi.u-tokyo.ac.jp

※上記メールアドレスの[at]は@に置き換えてください。

東京大学、新たな研究組織「グローバル・コモンズ・センター」を設立

東京大学は、グローバル・コモンズ・センターを設立し、地球環境を構成する最も重要なシステム、すなわちグローバル・コモンズを科学に基いて保全する国際的な枠組みと実践的な意思決定ツールの提供を目指します。

気候や生物多様性など、人類と地球のすべての生命に必須の地球の諸システム、すなわち「グローバル・コモンズ」は、人類と地球の持続可能で豊かな未来になくてはならないものです。しかし今日まで、これらのシステムを国際的連携によって保全しようとする取り組みは、公共的な道義と意思決定において中心的課題となっていません。

センターは、まず第一段階で、新たな「グローバル・コモンズ・スチュワードシップ・フレームワーク」の研究開発に取り組み、ビジネス、政策決定、デジタル、金融市場、市民社会など様々な分野のリーダー達が人類の共有財産たる地球を保全する際に真に役立つ国際的な指針を提供します。そのフレームワークは、人類社会の持続に不可欠な地球システムの保全に対する各国の貢献を評価・比較するとともに、グローバル・コモンズを保全する上でのデジタル分野の役割を明確にするユニークな方法を提供する予定です。

センターは、五神真総長の長期的ビジョンの一つの結実でもあります。「大学は、人類が直面する挑戦への根本的な解決策を探求するために、アカデミアの境界を超えた幅広い分野のリーダー達との協創を通じ、社会変革を駆動する主導的な役割を果たすべきです」と総長は述べています。

直近まで地球環境ファシリティの CEO 兼議長を務めた石井菜穂子氏が、センターの初代ダイレクターに就任します。「私たちは、地球システムを改変しその機能を壊している最初の人類世代ですが、一方、その流れ変えて人類を大災厄から救う世代になることもできます」と、石井教授は述べます。「私たちは、自らの生き方、食べ方、消費・生産方法、移動のし方を転換する必要があります。また、新しいデジタルツールの活用はそれらの変革を飛躍的に加速できるポテンシャルを持っています。そして、持続可能な未来のために、グローバル・コモンズを管理する新しい枠組みを構築する必要があります。」

気候変動と同じく、新型コロナが地球環境の限界を踏み越えた時に待ち受けるリスクを私たちに示している今こそ、このセンターの設立には重要な意味があります。「新型コロナなど人獣共通感染症のリスクは、人間の経済システムと自然がひっきりなしに衝突することによって増大しています。それは、今の社会・経済の弱点と脆さを暴き、社会の不平等を顕在化し、地球規模のリスクへの対応力を試しています。また、新型コロナを巡る世界の状況は、今日の政治システムでは、グローバル・コモンズを管理する効果的な国際協力が難しいことを示しています。」と石井教授は言います。

第一段階におけるもう一つの主要課題は、いくつかの主要な社会・経済システム（またはサブ・システム）の転換のあり方を研究し促進することです。グローバル・コモンズ保全の取り組みにおける影響度と緊急性から、まずサーキュラー・エコノミーの実現と食料システムの転換を優先テーマとします。それは、グローバル・コモンズ保全の効果的な方法として認められつつある「マルチステークホルダーの連携（multi-stakeholder coalitions）」、すなわち、ビジネス、政策決定、市民社会のリーダー達が共通目標と説明責任を伴う行動計画のもとに協働するアプローチを通じて進めます。

センターのビジョン：今こそが行動の時

東京大学が喫緊の課題としてグローバル・コモンズ・センターを設立するのは、人類文明の持続可能性が重大な岐路にあるという圧倒的な証左があるからです。人口の急増、都市への集中、豊かな生活のあくなき探求が、地球環境に大きな負荷をかけています。20世紀後半までに、人類は、地質史上初めて地球システムを支配し変えてしまう生物種となり、自らと他の生物の未来を危険にさらしています。科学者たちは今、私たちが新しい地質時代である人新世 (Anthropocene) に入り、地球環境のいくつかの重要な分野で限界を越えて、繁栄を続けることが難しい状態に近づくと考えています。

このような人類社会のかつてない危機は、その根底にある原因に対処する根本的な解決策を必要としています。それは、地球に最も大きな負荷をかけるエネルギー、食料、生産/消費、都市などの社会・経済システムを、根本的に転換することです。従来社会・経済システムは、化石燃料への依存、計画性のない都市集中、環境負荷を考慮しない食料生産や消費、資源循環なしの大量生産・大量消費などによってグローバル・コモンズを壊しており、地球を瀕死の状態に追い込んでいます。地球と人類社会を持続可能にするには、そのシステムを急速に変革する必要があります。

デジタル・テクノロジーは、グローバル・コモンズ・ステewardシップを進める上で私たちの大きな強みとなります。現実世界とサイバー空間が深く結びつく今日、データとデジタル技術が提供する洞察によって、グローバル・コモンズを保全するための社会・経済システムの転換を加速することができます。しかし、フェイクニュース、サイバーセキュリティの弱点、その他の問題が示すように、デジタル技術が正しい取り組みを妨害する可能性もあります。センターは、地球システムというグローバル・コモンズを守る上で、サイバーと現実社会との密接な関係を理解する必要があります。グローバル・コモンズを守るために「サイバー・グローバル・コモンズ」の役割についても研究も行います。

「これらの人類に対する挑戦的課題には、根本的な解決策が必要です。」と五神総長は言います。「グローバル・コモンズを管理し、地球システムの健全性を回復し、人類と地球の繁栄の基盤を築くには、効果的なメカニズムが必要です。センターは、私たちはどのようにそれを実現できるかを探求します。」

※グローバル・コモンズ・センターは、東京大学未来ビジョン研究センター内に設置され、石井菜穂子教授が初代ダイレクターに就任しました。石井菜穂子教授は、2012年8月から2020年7月まで地球環境ファシリティの最高経営責任者(CEO)兼議長として、重要な生態系を保護しながら、エネルギー、都市、食料等のシステム転換を促進するとともにサーキュラー型の経済モデルを目指すべく、長期的戦略を策定し実行しました。元副財務官、開発経済学を研究、地球環境保全のために国際的に活動しています。